

「菜園 歳時記」 (8月)

平塚市の郊外・寺田縄に菜園をもっています。辺りは水田地帯、北には大山から丹沢連峰、西には富士山、足柄峠そして箱根の山々が遠望できます。菜園の作柄にあわせ季節ごとの風景に酔いしれること多数。同じ菜園仲間と楽しく過ごしています。



朝早くから畑に出て除草、収穫を行い、ラジオ体操も畑です。夕方は、この乾燥です、野菜たちがのどを乾かしています。たっぷり潤します。我々の日中は家の中、エアコンで暑さをしのぎ、夕方に備えます。

写真は「下仁田ネギ」 昨年は苗をもらいましたが、種から苗を育てました。3畝分です。収穫が待ち遠です、「ネギパーティー」ができるかな・・・。

中央の緑が「米ナス」2本です。分かりにくいですが奥にナス、トマト、左にズッキーニ、つまみ口にするトマトは渴きを癒してくれます。

夏野菜に満ちています。

この用地、連作は禁です、来年は別の作物になります。禁じ手の品種を纏めています。

手前は、長ネギと三つ葉（少々固い）近くに、ピーマン、シシトウなどもあります。



ズッキーニの雄花です。花の形はカボチャに似ています。

雌花は別に種部分（実・食用）を付けて咲き、人工的に授粉をさせます。サボると実になりません。昆虫による自然交配もありますが、収穫を確実にするため、人間は強制的手段をこうじます。

花がしぼむ前、早朝の作業になります。



大仕掛けの柵は、ゴーヤ専用です。つるが伸び、実をつけ出す頃、毎年台風で倒されてきました。この構造は、南からの風を考慮し、防災を考え作りしました。

効果のほどはまだ分かりません。ゴーヤ以前に立てたキュウリ柵は、直上に立てたので、襲来した台風の強風の被害を受けました。

ゴーヤは、この方式で万全です。いや、と思います。



向こうから、キュウリ（柵が傾いています）右、イチジクです。沢山の実を付けていますが、風の強い畑、熟してくれば、ジャムになります。

中央は、カボチャ、苗を植えたわけではありません。始末した生ごみからの「自生」です。肥料分も十分だったかのびやかで、大きな実を付けています。このまま伸びるにまかせれば、畑は占領されてしまいます。

蝶（外敵青虫の親）をよけるネットの中はキャベツ、手前はオクラ、毎日食べています。



ネットの中は、スイカ、中玉と小玉を3本植えました。残念なことに、カラス？に2個つつかれました。いずれも赤く熟していました。食べ頃が分かるのですね。憎らしいです。時折、近くの棧にとまり偵察していたカラスもいました。彼の仕業かな？以後、左右、上にもネットをかけ、自衛措置を施しています。今のところ、効果がありそうです。収穫した3個目、甘く実にうまいスイカでした。小型ですが、家族3人

では2回に分けて食べられました。中玉スイカは人の頭ほどの大きさです。記念写真に撮り、近所にもおすそ分けしました。手前は、名前は分かりませんが、米ナス風の緑色した大きなナスです。苗をもらいました。